

みんなで水害から避難しよう! ～地域の避難方針の作り方～



令和4年3月

台東区

■お問合せ先

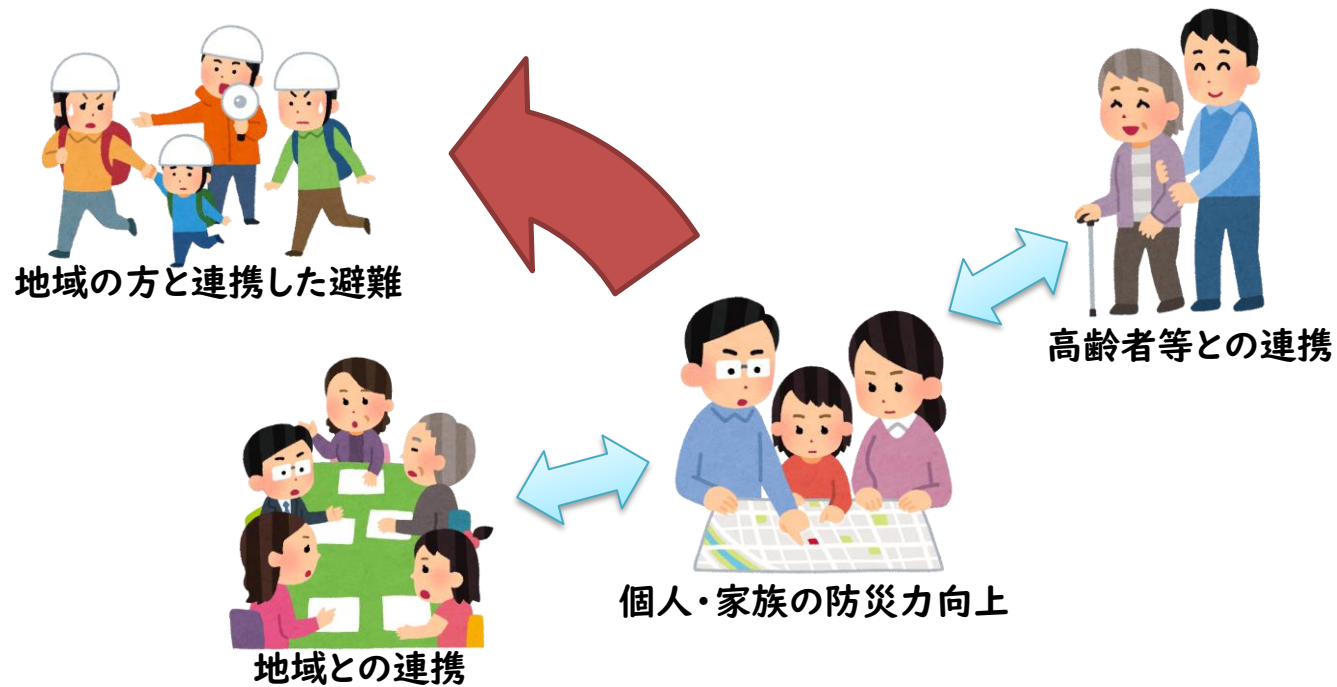
〒110-8615 東京都台東区東上野4丁目5番6号

台東区役所10階

総務部 危機・災害対策課 TEL:03-5246-1092

『この冊子は、地域の方々が地域の避難方針を
作成するためのガイドラインです。』

日本各地で水害が発生し、人々の暮らしに甚大な影響を及ぼしています。水害から住民の生命と財産を守るために、「マイ・タイムライン」による個人・家族の防災力向上と、地域の方と連携した「地域の避難方針」を作成し、地域全体の防災力向上を目指します。



地域の避難方針作成の流れ・・・・・・・・・・・・・01

1. 地域の避難方針作成に向けて!・・・・・・・・・・・・・03

2. 台東区の特徴って?・・・・・・・・・・・・・05

3. 台東区ではどんな水害が起こる?・・・・・・・・・・・・・07

4. どんな準備ができる?・・・・・・・・・・・・・09

5. どこに避難するの?・・・・・・・・・・・・・11

6. いつ避難するの?・・・・・・・・・・・・・15

7. マイ・タイムラインを作ってみよう!・・・・・・・・・・・・・17

8. 地域で話し合ってみよう!・・・・・・・・・・・・・19

9. 地域で話し合ったことをまとめよう!・・・・・・・・・・・・・22

10. 町会みなさんに避難方針を周知!・・・・・・・・・・・・・23

地域の避難方針 作成例・・・・・・・・・・・・・24

このガイドラインで使用する資料!

ホームページでダウンロードして頂くか、[区役所10階危機・災害対策課](#)にご連絡ください。



ハザードマップ



たいとう区安全・安心
ハンドブック



東京マイ・タイムライン

1.地域の避難方針作成に向けて!

- 「地域の避難方針」を作成するための最初の話し合いの場を設けましょう。

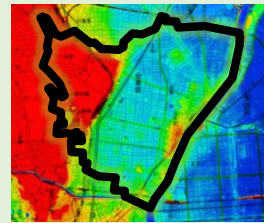


- P. 3~4
- 準備:ハザードマップ たいとう区安全・安心ハンドブック

知る(個人ワーク)

2.台東区の特徴って?

- お住いの地域の特徴を知って、水害時の課題を知りましょう。



- P. 5~6

3.台東区ではどんな水害が起こる?

- ハザードマップを見て、お住いの地域で起こる水害を確認しましょう。



- P. 7~8
- 準備:ハザードマップ たいとう区安全・安心ハンドブック

4.どんな準備ができる?

- 水害に対して、日ごろからどんな準備が出来るか考えましょう。



- P. 9~10

5.どこに避難するの?

- 台風や大雨のとき、どう行動するかを考えましょう。



- P. 11~14
- 準備:ハザードマップ たいとう区安全・安心ハンドブック

6.いつ避難するの?

- 避難をするとき、どのタイミングで避難するかを考えましょう。



- P. 15~16
- 準備:たいとう区安全・安心ハンドブック

作る(個人ワーク)

7.マイ・タイムラインを作ってみよう!

- 考えたことをまとめて、マイ・タイムラインを作しましょう。



- P. 17~18
- 準備:東京マイ・タイムライン

考える

8.地域で話し合ってみよう!

- マイ・タイムラインを見せ合って、協力できることを話し合しましょう。

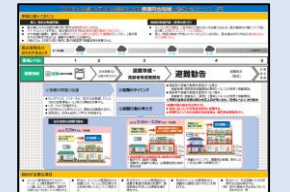


- P. 19~21
- 準備:マイ・タイムラインシート

作る

9.地域で話し合ったことをまとめよう!

- 地域で話し合ったことをまとめて、「地域の避難方針」「地域タイムライン」を作りましょう。



- P. 22

10.地域みなさんに避難方針を周知!

- 話し合って決まった「地域の避難方針」を周知して、地域の皆さんにマイ・タイムラインを作ってもらいましょう。



- P. 23



地域の方と連携した避難



1.地域の避難方針作成に向けて!

話し合いの場(部会)の設置

まずは、「地域の避難方針」作成のための話し合いの場(部会)を設置して、何のために「地域の避難方針」を作成するのかなど、町会の考えを知ってもらいましょう。



話し合いの場(部会)の流れ

参加者に呼びかけ

- こんな人に参加してもらいましょう。
地域住民、地域にある施設(学校、要配慮者施設、事業所等)の代表者、町の防災担当者、消防団員、学識経験者 等
- 人数:20名程度

準備

■準備するもの(人数分)

●ハザードマップ



●東京マイ・タイムライン



●たいとう区安全・安心ハンドブック



1.地域の避難方針作成に向けて!

場所と日程の決定

■開催場所

6人程度ずつ向かい合って話し合うことが出来るような場所が望ましいです。

開催通知

場所・時間が決まったら、参加者にお知らせしましょう。

開催

■話し合う内容

- ・「地域の避難方針」を作成するまでの流れを共有。
- ・水害に関する勉強会の開催(参加)について検討。
- ・町内の方の意識を知るために、水害に対してどれくらい備えているかのアンケート実施について検討。
- ・その他、参加者からの意見、今後の予定を共有。

➤話し合いで決まった事をメモしましょう!



■	_____
■	_____
■	_____
■	_____
■	_____

2. 台東区の特徴って？

お住いの地域の特徴を知っておくことで、**地域が抱える水害時の課題を知る**ことができ、事前の備えや、避難方針を考えるときに役立ちます。

台東区全体の概要を参考に、お住いの地域の特徴を調べてみましょう。

台東区の概要

上野や浅草地域は、**駅を中心に商店街、繁華街**が広がっており、東上野、元浅草、西浅草、浅草橋等には、**専門的問屋が集積**しています。

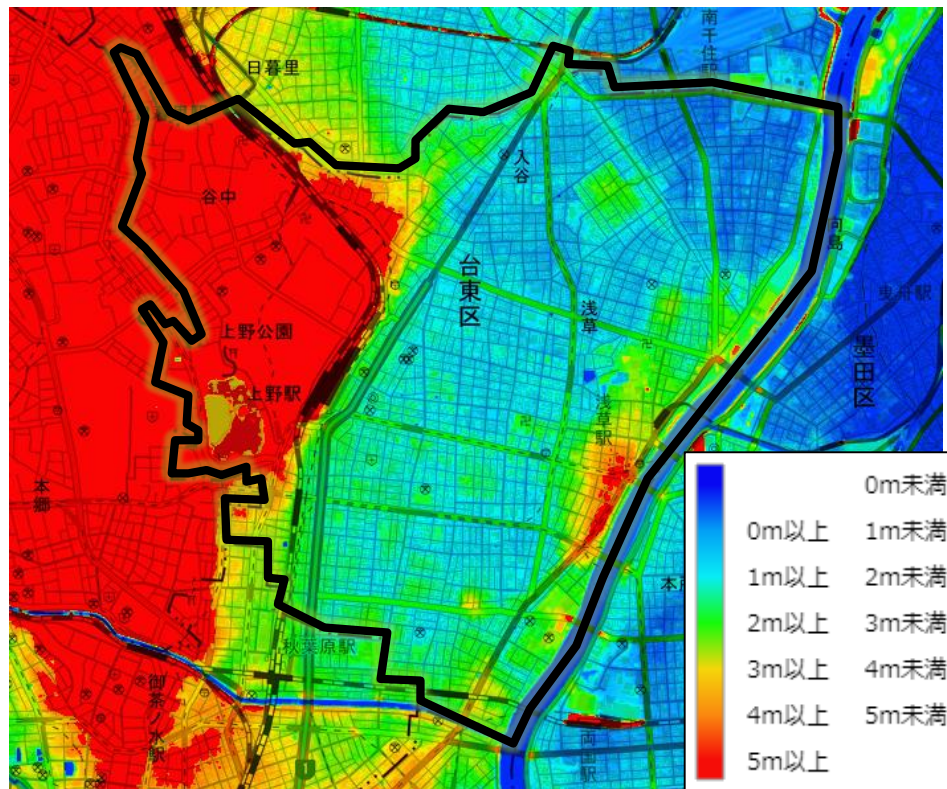
他にも、**高層のマンションが多い、事務所が多い、高齢者のみの世帯が多い**など、地域の特徴を調べてみましょう。

地域の人口

お住まいの地域の人口は、台東区のホームページで確認することが出来ます。「台東区 人口」で検索してみましょう。

台東区の標高図

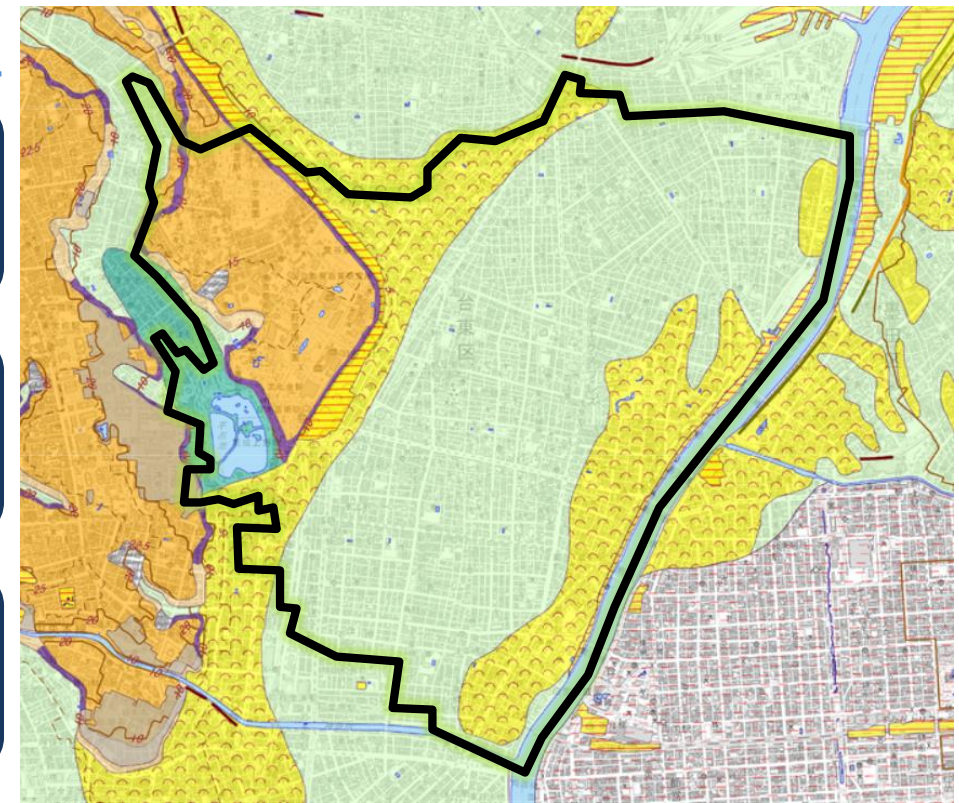
台東区の標高図を見て、お住いの地域が高い場所にあるか低い場所にあるか確認しましょう。**青くなるほど低い場所**にある土地で、**水が溜まりやすい土地**です。



2. 台東区の特徴って？

台東区の地形分類図

- 氾濫平野**
■過去の洪水で土砂などが運ばれてできた土地。低地のため、洪水による冠水が心配されます。
- 砂州・砂丘**
■水や風によって運ばれた砂が堆積してできた土地。低地だが、周辺よりわずかに高い。
- 段丘面**
■河川や湖に沿って分布する平らな土地。地殻変動による陸地の上昇などにより作られる。



台東区の北西部は台地で標高が高いが、**広い範囲が低地**となっています。土地の成り立ちや標高図から、水が溜まりやすい場所、溜まりにくい場所がわかるため、**避難先を考えるときの参考**にしましょう。

➤ 調べた「お住まいの地域の特徴」を記入しましょう！
※ここで記入したものは、「マイ・タイムライン」や「地域の避難方針」の作成時に使用します。



1. 地域の特徴

- _____
- _____
- _____
- _____
- _____
- _____

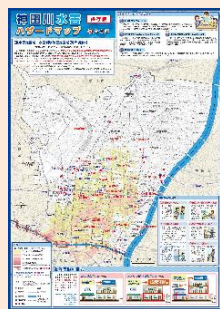
3. 台東区ではどんな水害が起こる？

▶ 準備するもの：ハザードマップ、たいとう区安全・安心ハンドブック

台東区が発行しているハザードマップを見て、**お住いの地域に被害が想定されているか、被害がどれくらい続くのかを確認しましょう。**

また、浸水によってどのような被害が発生するのかも調べてみましょう。

■浸水が比較的短期間で収まる水害



【神田川氾濫】
神田川から水が溢れたり、堤防が決壊して起こる現象。

台東区神田川水害ハザードマップ



【内水氾濫】
雨が、河川や下水道などの治水施設で処理しきれずに**地表面に溜まる**現象。

台東区内水氾濫ハザードマップ



【高潮】
台風や低気圧などに伴い発生する現象。

台東区高潮水害ハザードマップ

■長期にわたり浸水が継続する水害



【荒川氾濫】
荒川から水が溢れたり、堤防が決壊して起こる現象。

台東区荒川水害ハザードマップ

■土砂災害



土石流、がけ崩れ、地すべりの3つの現象。

台東区土砂災害ハザードマップ

▶ 水害について詳しく知りたい方は「たいとう区安全・安心ハンドブック」のP.11～P.12をチェック!



3. 台東区ではどんな水害が起こる？

▶ ハザードマップで確認した浸水深や浸水時間、浸水で発生する被害を記入しましょう!



2. 想定されるリスク（荒川氾濫）

- _____
- _____
- _____
- _____

2. 想定されるリスク（神田川氾濫）

- _____
- _____
- _____
- _____

2. 想定されるリスク（内水氾濫）

- _____
- _____
- _____
- _____

2. 想定されるリスク（高潮）

- _____
- _____
- _____
- _____

2. 想定されるリスク（土砂災害）

- _____
- _____

4. どんな準備ができる？

お住まいの地域で起こる水害に対して**どんな準備ができるか**、日ごろからできること、避難する直前にできること、に分けて考えましょう。



- 風水害に対する知識の向上
- 避難場所や避難ルートの確認

➢ 避難場所については「**たいとう区安全・安心ハンドブック**」のP.16をチェック!



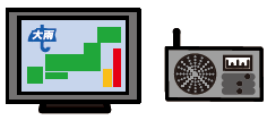
- 水や食糧、簡易トイレ等の備蓄

➢ 備蓄品については「**各ハザードマップ**」の情報面をチェック!



●避難に係る情報の収集方法の確認

テレビ
ラジオ



携帯メール
FAX



防災気象情報
(台東区ホームページ)
台東ケーブルテレビ



スピーカー(防災無線)
防災ラジオ(防災無線)
広報車



■防災情報などのホームページ



台東区
ホームページ



たいとう防災
気象情報メール



台東区防災アプリ
iOS用



Android用

4. どんな準備ができる？



- 避難するときの服装確認
- 非常持ち出し品の準備

➢ 非常持ち出し品については「**各ハザードマップ**」の情報面をチェック!



- 貴重品等を高い場所に移動

➢ 日ごろから移動できるものは移動させておきましょう。

➢ 日ごろから準備できることについて、考えたことを記入しましょう!



3. 事前に備えておくこと (個人・家庭での取組)

- _____
- _____
- _____
- _____

➢ 避難する直前の準備について、考えたことを記入しましょう!

避難準備

- _____
- _____
- _____
- _____

5. どこに避難するの？

➤ 準備するもの：ハザードマップ、たいとう区安全・安心ハンドブック

台風や大雨の時、何に注意をして、どう行動するかをハザードマップを確認しながら考えましょう。

■ 台東区荒川水害ハザードマップ（荒川氾濫）
 ※台東区から「自主的広域避難情報」が発表されたら、この避難行動をとってください



お住いの地域は浸水が想定されていますか？

はい

いいえ

浸水が2週間以上続きます！
 浸水想定区域外へ避難してください！

避難の必要はありません。

浸水想定区域外への避難について

避難先は、親戚や友人の家、お勤め先、ホテルなどの自主避難先を決めておくと安心です。

➤ 避難行動について詳しく知りたい方は「たいとう区安全・安心ハンドブック」のP.14～P.16をチェック！



5. どこに避難するの？

■ 荒川が氾濫したとき、もし自宅に留まったら？

【電気】

- コンセントへの浸水で漏電・停電が発生する。
- マンションの場合、電気室への浸水で停電が発生する。

【水道】

- 停電したらポンプが停まるので、4階以上では給水できなくなる。
- 下水処理場が被害を受けると、風呂・トイレが使えなくなる。

【ガス】

- 2mを越える浸水で、高い確率でガスの供給停止となる。



出典：中央防災会議「大規模水害対策に関する専門調査会」報告

【携帯電話等のモバイル通信】

- 携帯電話の基地局が被害を受けると、携帯電話やインターネットが使えなくなる。

- このように、ライフラインが停止した状態が2週間程度続くおそれがあります。
- 2週間分の食料や飲料水、簡易トイレ、生活用水など、様々なものを備蓄しておかないと、生活は困難となります。

➤ 荒川氾濫による浸水が想定されている地域の方は、ライフラインの停止について記入しておきましょう。



2. 想定されるリスク（荒川氾濫）

- _____
- _____
- _____
- _____
- _____

5. どこに避難するの？

- 台東区神田川水害ハザードマップ (神田川氾濫)
- 台東区水害ハザードマップ (内水氾濫)
- 台東区高潮水害ハザードマップ



お住いの地域は浸水が想定されていますか？

はい

いいえ

自宅は2階以上ですか？

避難の必要はありません。

はい

いいえ

在宅避難をしてください。

ハザードマップに載っている緊急避難場所へ避難してください！

- 台東区土砂災害ハザードマップ ※谷中・池之端にお住いの方のみ



お住いの地域は土砂災害警戒区域ですか？

はい

いいえ

ハザードマップに載っている緊急避難場所へ避難してください！

避難の必要はありません。

5. どこに避難するの？

➤ どこに避難するか、考えたことをまとめておきましょう。



- 荒川氾濫

避難場所

- 神田川氾濫

避難場所

- 内水氾濫

避難場所

- 高潮

避難場所

- 土砂災害 ※谷中・池之端にお住いの方のみ

避難場所

➤ 避難場所については「台東区安全・安心ハンドブック」のP.16をチェック！



6. いつ避難するの？

▶ 準備するもの：たいとう区安全・安心ハンドブック

下の表を見て、いつ避難するかを考えましょう。台東区が発令する避難情報とその時のとるべき行動を参考にしてください。安全に避難が出来るように**早めの避難**を心がけましょう。

警戒レベル	台東区が発令する避難情報	とるべき行動
レベル3以前	自主的広域避難情報 ※荒川氾濫が想定される場合に発表	浸水想定区域外へ避難する方は早めに避難!
レベル3	高齢者等避難	避難に時間がかかる方は避難! (高齢者、障害者、乳幼児と一緒に避難する方 など)
レベル4	避難指示	浸水する可能性がある地域にお住まいの方は、 全員避難!
レベル5	緊急安全確保	すでに災害が発生している状況! 近くの堅強な建物に避難するなど、命を守るための最善の行動を!

避難にかかる時間について

避難にかかる時間も知っておくと安心です。家から避難先までの距離をGoogleMap等で調べて、下の目安に従って時間を計算してみましょう。

- 【目安】
- 1000m歩くのに15分かかる。

▶ 避難情報や防災情報、気象情報について詳しく知りたい方は「たいとう区安全・安心ハンドブック」のP.17をチェック!



6. いつ避難するの？

▶ 「5.どこに避難するの？」で決めた避難場所ごとに「避難開始」「避難準備の開始」のタイミングを決めて記入しましょう。



■ 荒川氾濫の時の避難場所に行く場合

避難開始	避難にかかる時間

■ 神田川氾濫の時の避難場所に行く場合

避難開始	避難にかかる時間

■ 内水氾濫の時の避難場所に行く場合

避難開始	避難にかかる時間

■ 高潮の時の避難場所に行く場合

避難開始	避難にかかる時間

■ 土砂災害の時の避難場所に行く場合

避難開始	避難にかかる時間

7. マイ・タイムラインを作ってみよう!

▶ 準備するもの: 東京マイ・タイムライン

これまで考えた風水害から避難するための行動を整理して、**マイ・タイムライン**を作成してみましょう。

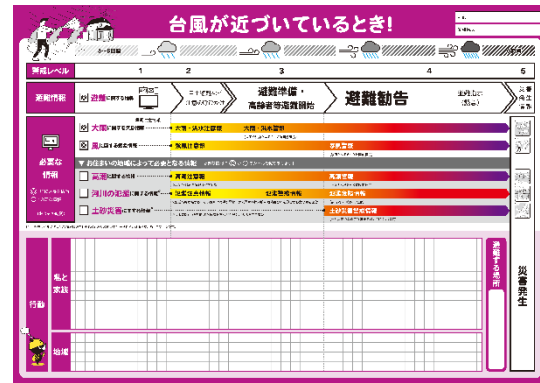
東京マイ・タイムライン作成(例)

東京マイ・タイムラインには、作成するシートが3枚封入されていますが、主に「**台風が近づいているとき!**」「**大雨が長引くとき!**」のシートを使用します。

「3. 台東区ではどんな水害が起こる?」で、お住いの地域に被害が想定されている水害について、シートを作成しましょう。

■ 荒川氾濫の被害が想定されている場合

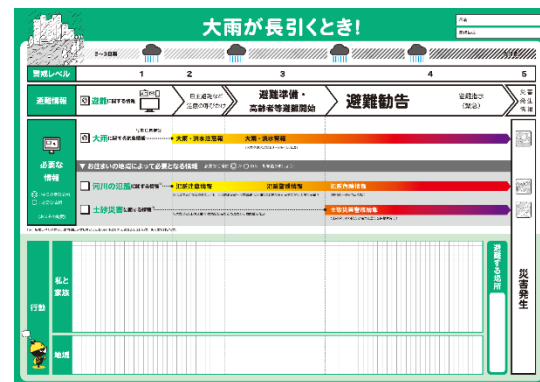
⇒ 台風が近づいているとき!シートを使用



■ 神田川氾濫・内水氾濫・高潮の被害が想定されている場合

※ 神田川氾濫・内水氾濫・高潮の被害を比較した時に最も大きい被害となるケースについて作成してください。

⇒ 大雨が長引くとき!シートを使用



■ 土砂災害が想定されている場合

⇒ どちらのシートを使用しても大丈夫です!

7. マイ・タイムラインを作ってみよう!

マイ・タイムラインの作成例

「6. いつ避難するの?」
で考えたタイミングを記入

「4. どんな準備ができる?」で考えた「避難準備」の内容を記入

「5. どこに避難するの?」で考えた「避難場所」を記入

▶ マイ・タイムラインの詳しい作り方については「東京マイ・タイムライン」もしくは「東京マイ・タイムラインホームページ」をチェック!



東京マイ・タイムライン

8. 地域で話し合ってみよう!

➤ 準備するもの:作成したマイ・タイムラインシート

話し合いの場(部会)の開催

作成したマイ・タイムラインを地域の方と見せ合って、皆さんの意見や考え方、協力し合える事などを話し合ってみましょう。

※開催までの流れは、本ガイドラインのP.3~P.4を参照してください。

■話し合う内容(例)

- 日ごろからの備えとして、地域で助け合えることは?
- 避難する前後で、地域で助け合えることは?
- 避難に時間がかかる方(高齢者、障害者、乳幼児)に対して、地域として出来ることは?



■話し合いで準備する資料等(例)

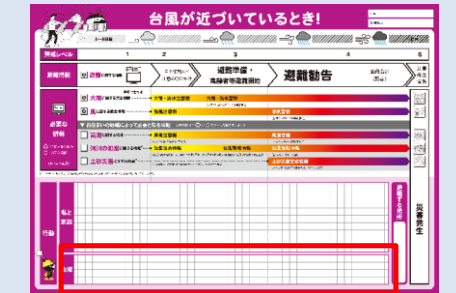
資料等	用途等
作成したマイ・タイムライン	意見を共有して話し合う。
ハザードマップ	浸水想定区域等の確認をする。
模造紙、付箋紙、ペン	話し合ったことや検討結果等を書いて整理する。



話し合いの様子(イメージ)

8. 地域で話し合ってみよう!

- 皆さんの意見を聞いて、良かったことは取り入れてマイ・タイムラインを更新していきましょう!
- 高齢者の方等に対してできること、協力し合えることがあれば、マイ・タイムラインシートの【地域】の欄に追加していきましょう!



地域の事はここに追加

検討が必要な項目について

話し合った中で、「事前に決めておいた方が良いこと」や「お住いの地域の課題」等、検討が必要な項目があればまとめておきましょう。

■他の地域では、このような事例がありました!

- 1戸建てに住んでる方の緊急避難先を確保するため、マンション居住者以外の住民の受け入れを、管理組合と話し合う。
- 避難に支援が必要な方の把握や、いざという時の連絡網を作成する。

➤話し合いで決まった、内容を記入しておきましょう。



■日ごろからの備えとして、地域で助け合えること

3. 事前に備えておくこと(地域に対する取組)

- _____
- _____
- _____
- _____

8. 地域で話し合ってみよう!

➤ 話し合いで決まった、内容を記入しておきましょう。



■地域で助け合えること

タイムラインを4つの段階に分けて考えてみましょう。

情報収集時期

- _____
- _____
- _____

避難開始前

- _____
- _____
- _____

避難中

- _____
- _____
- _____

避難完了後

- _____
- _____
- _____

■検討が必要な項目

避難完了後

- _____
- _____
- _____

9. 地域で話し合ったことをまとめよう!

これまで考えたことをまとめて、**お住いの地域の避難方針**を作成しましょう。
また、「検討が必要な項目」について話し合ったら、「**地域の避難方針**」を**どんどん更新**していきましょう。

地域の避難方針について (案) (1/3)

想定する風水害 外水氾濫 (荒川氾濫) 神田川氾濫 内水氾濫 土砂災害 高潮

2. 想定されるリスク (荒川氾濫)

1. 地域の特徴

ライフラインが途絶したら...

4階以上では給水できない

停電すると、冷蔵庫やクーラーが使用できない

風戸・トイレが使えなくなると、ごみや排出物がたまって悪臭に

携帯電話やインターネットが使えない

2. 想定されるリスク (神田川氾濫・内水氾濫・高潮)

2. 想定されるリスク (土砂災害)

3. 事前に備えておくこと

個人・家庭の取組内容

地域の取組内容 (連携のあり方)

P.6「2. 台東区の特徴って?」の内容を記入

P.8「3. 台東区ではどんな水害が起こる?」の内容を記入

P.12「ライフラインの停止」の内容を記入

P.10「4. どんな準備ができる?」の内容を記入

P.20「日ごろからの備えとして、地域で助け合えること」の内容を記入

地域の避難方針について (案) (2/3)

4. 地域のタイムライン (荒川氾濫)

避難情報 避難に関する情報 自主避難など注意の呼びかけ 避難準備・高齢者等避難開始 避難勧告 避難指示 (緊急) 災害発生情報

①情報の収集と伝達 (以後継続)

②避難のタイミング

③避難行動の考え方

個人の行動

地域の行動

もし在宅避難を行う場合

自宅が3階建て以上もしくはマンションの3階以上にお住いの方は、ライフライン停止を想定した、2週間以上の備蓄の準備が必要。マンション内での助け合いが必要。

5. 検討が必要な項目

P.21「地域で助け合えること」の内容を記入

P.21「検討が必要な項目」の内容を記入

話し合って決まったことは追加して更新!

10. 町会のみなさんに避難方針を周知!

話し合って決まった「地域の避難方針」を周知して、町会の皆さんにマイ・タイムラインを作ってもらいましょう。

●町会地域の避難方針について (案) (1/3)

想定する風水害
 外水氾濫 (河川氾濫) 神田川氾濫
 内水氾濫 土砂災害

1. 地域の特徴
 ● 神田川(横田川)に隣接する。
 ● 標高は2~3mで、周辺よりやや高い土地となっている。
 ● 人口は世帯数
 人口: 3,393人 世帯数: 2,182世帯
 ● 高層のマンションおよび事業所が多く、町会とのつながりが薄い。
 ● 高齢者人口が多く、地域外の方も多い。
 ● 高齢者のみの世帯が多い。

2. 想定されるリスク (荒川氾濫)
 ● 地区全域で0.5~3.0m未満の浸水深と、2週間以上浸水が継続することが想定されている。
 ● 地下室がある場合、水の方で扉が開かなくなるおそれがある。
 ● 浸水区域のすべての建物で、コンクリートの浸水により漏電・停電が発生する。マンションの場合は電気室への浸水や停電が発生する。
 ● マンション等は、停電によるポンプの停止で給水できなくなる。
 ● 下水処理場の被害状況によって、風呂・トイレが使えなくなる。
 ● 携帯電話の基地局の被害状況によって、携帯電話やインターネットが使えなくなる。
 ● 2mを超える浸水で、高層までガス供給が停止となる。
 ● エレベーターシャフトへの浸水でエレベーターの運転が停止する。

2. 想定されるリスク (神田川氾濫・内水氾濫・高潮)
 ● 浸水深0.2~1.0m未満、浸水継続時間は数時間程度で、床下浸水、1階浸水の可能性がある。

●町会地域の避難方針について (案) (2/3)

4. 地域のタイムライン (荒川氾濫)

避難情報
 自主避難など
 避難準備・高齢者等避難開始
 避難勧告
 避難指示 (緊急)

1. 情報の収集と伝達 (以後継続)
 ● テレビやラジオ、インターネット (防災HP、防災アプリ等)、Yahoo!防災ニュース等)、防災HP、防災アプリ等から情報を収集する。
 ● マンションの防災係りや住民の声を聴く。
 ● マンションの防災係りや住民の声を聴く。
 ● マンションの防災係りや住民の声を聴く。

2. 避難のタイミング
 ● 想定している避難先までにかかる移動時間を考慮し、早めの避難を開始する。

3. 避難行動の考え方
 ● 避難先は、浸水想定区域外へ避難。
 ● 避難先は、浸水想定区域外へ避難。
 ● 避難先は、浸水想定区域外へ避難。

3. 事前に備えておくこと
 個人・家庭の取組内容
 ● 風水害に対する知識や備え等に関する理解度を向上させ、マイ・タイムラインの作成、生活用品、食料品の準備、避難場所の確保などを行う。
 ● 非常用の食料品、情報入手するもの(家の一番高いところに用意する)、交通手段などの避難方法や持ち出しものを決めておく。【広域避難】
 ● 広域避難先を決めておく。親戚・知人宅が困難な場合はホテルなどの利用も考える。【緑故避難】

●町会地域の避難方針について (案) (3/3)

4. 地域のタイムライン (神田川氾濫・内水氾濫・高潮)

※自主的広域避難情報が発表されたら、「地域のタイムライン (荒川氾濫)」を参照する。

1. 情報の収集と伝達 (以後継続)
 ● テレビやラジオ、インターネット (防災HP、防災アプリ等)、Yahoo!防災ニュース等)、防災HP、防災アプリ等から情報を収集する。
 ● マンションの防災係りや住民の声を聴く。
 ● マンションの防災係りや住民の声を聴く。

2. 避難のタイミング
 ● 想定している避難先までにかかる移動時間を考慮し、早めの避難を開始する。

3. 避難行動の考え方
 ● 浸水深0.5m未満の地域
 ● 浸水深0.5~3.0m未満の地域
 ● 2階以上に住んでいる場合は在宅避難

5. 検討が必要な項目
 ● 町会及びマンションの管理組合は、避難行動要支援者の把握や、連絡調整の体制による情報伝達を検討する。
 ● 町会によるマイ・タイムライン作成の支援を検討する。
 ● 水害に対する意識を高める運動を検討する。



- 「地域の避難方針」の避難のタイミングや避難場所、地域との連携を参考にして、マイ・タイムラインを作成しましょう。
- 町内の集会やご近所同士など、みなさんでマイ・タイムラインを作成しましょう。

台風が近づいているとき!

1. 情報の収集と伝達 (以後継続)
 ● テレビやラジオ、インターネット (防災HP、防災アプリ等)、Yahoo!防災ニュース等)、防災HP、防災アプリ等から情報を収集する。
 ● マンションの防災係りや住民の声を聴く。
 ● マンションの防災係りや住民の声を聴く。

2. 避難のタイミング
 ● 想定している避難先までにかかる移動時間を考慮し、早めの避難を開始する。

3. 避難行動の考え方
 ● 浸水深0.5m未満の地域
 ● 浸水深0.5~3.0m未満の地域
 ● 2階以上に住んでいる場合は在宅避難

4. 避難完了後
 ● 避難先で地域の方を見つけたら協力しよう。

地域の避難方針 作成例

(1/3)

2. 想定されるリスク (荒川氾濫)

地区全域で0.5~3.0m未満の浸水深と、2週間以上浸水が継続することが想定されている
 地下室がある場合、水の方で扉が開かなくなるおそれがある。
 浸水区域のすべての建物で、コンクリートの浸水により漏電・停電が発生する。マンションの場合は電気室への浸水や停電が発生する。
 マンション等は、停電によるポンプの停止で給水できなくなる。
 下水処理場の被害状況によって、風呂・トイレが使えなくなる。
 携帯電話の基地局の被害状況によって、携帯電話やインターネットが使えなくなる。
 2mを超える浸水で、高い確率でガス供給が停止となる。
 エレベーターシャフトへの浸水でエレベーターの運転が停止する。

2. 想定されるリスク (神田川氾濫・内水氾濫・高潮)

浸水深0.2~1.0m未満、浸水継続時間は数時間程度で、床下浸水、1階浸水の可能性がある。
 神田川(横田川)に隣接する。河岸浸食による家屋倒壊等の危険性がある。
 地下室がある場合、水の方で扉が開かなくなるおそれがある。
 戸建の場合はコンクリートの浸水、マンションの場合は電気室への浸水で停電の可能性がある。
 停電した場合は、4階以上では給水できなくなる可能性がある。
 エレベーターシャフトへの浸水でエレベーターの運転が停止する。

2. 想定されるリスク (土砂災害)

被害は想定されていない

地域の取組内容 (連携のあり方)

風水害時の行動について話し合う等、日頃からコミュニケーションを図る。
 町内の全戸へ水害に関する避難方針の周知やマイ・タイムラインの作成を呼びかける。
 一緒に行動する方を決めておく。風水害のおそれがあるときに助け合えることを話し合う。
 広域・緑故避難の必要性、在宅避難を行う場合の備蓄の必要性の周知・啓発。
 若手の参入を図る。

町会地域の避難方針について (案) (1/3)

想定する風水害
 外水氾濫 (河川氾濫) 神田川氾濫
 内水氾濫 土砂災害

1. 地域の特徴
 ● 神田川(横田川)に隣接する。
 ● 標高は2~3mで、周辺よりやや高い土地となっている。
 ● 人口は世帯数
 人口: 3,393人 世帯数: 2,182世帯
 ● 高層のマンションおよび事業所が多く、町会とのつながりが薄い。
 ● 高齢者人口が多く、地域外の方も多い。
 ● 高齢者のみの世帯が多い。

2. 想定されるリスク (荒川氾濫)
 ● 地区全域で0.5~3.0m未満の浸水深と、2週間以上浸水が継続することが想定されている。
 ● 地下室がある場合、水の方で扉が開かなくなるおそれがある。
 ● 浸水区域のすべての建物で、コンクリートの浸水により漏電・停電が発生する。マンションの場合は電気室への浸水や停電が発生する。
 ● マンション等は、停電によるポンプの停止で給水できなくなる。
 ● 下水処理場の被害状況によって、風呂・トイレが使えなくなる。
 ● 携帯電話の基地局の被害状況によって、携帯電話やインターネットが使えなくなる。
 ● 2mを超える浸水で、高い確率でガス供給が停止となる。
 ● エレベーターシャフトへの浸水でエレベーターの運転が停止する。

町会地域の避難方針について (案) (2/3)

4. 地域のタイムライン (荒川氾濫)

避難情報
 自主避難など
 避難準備・高齢者等避難開始
 避難勧告
 避難指示 (緊急)

1. 情報の収集と伝達 (以後継続)
 ● テレビやラジオ、インターネット (防災HP、防災アプリ等)、Yahoo!防災ニュース等)、防災HP、防災アプリ等から情報を収集する。
 ● マンションの防災係りや住民の声を聴く。
 ● マンションの防災係りや住民の声を聴く。

2. 避難のタイミング
 ● 想定している避難先までにかかる移動時間を考慮し、早めの避難を開始する。

3. 避難行動の考え方
 ● 避難先は、浸水想定区域外へ避難。
 ● 避難先は、浸水想定区域外へ避難。
 ● 避難先は、浸水想定区域外へ避難。

3. 事前に備えておくこと
 個人・家庭の取組内容
 ● 風水害に対する知識や備え等に関する理解度を向上させ、マイ・タイムラインの作成、生活用品、食料品の準備、避難場所の確保などを行う。
 ● 非常用の食料品、情報入手するもの(家の一番高いところに用意する)、交通手段などの避難方法や持ち出しものを決めておく。【広域避難】
 ● 広域避難先を決めておく。親戚・知人宅が困難な場合はホテルなどの利用も考える。【緑故避難】

町会地域の避難方針について (案) (3/3)

4. 地域のタイムライン (神田川氾濫・内水氾濫・高潮)

※自主的広域避難情報が発表されたら、「地域のタイムライン (荒川氾濫)」を参照する。

1. 情報の収集と伝達 (以後継続)
 ● テレビやラジオ、インターネット (防災HP、防災アプリ等)、Yahoo!防災ニュース等)、防災HP、防災アプリ等から情報を収集する。
 ● マンションの防災係りや住民の声を聴く。
 ● マンションの防災係りや住民の声を聴く。

2. 避難のタイミング
 ● 想定している避難先までにかかる移動時間を考慮し、早めの避難を開始する。

3. 避難行動の考え方
 ● 浸水深0.5m未満の地域
 ● 浸水深0.5~3.0m未満の地域
 ● 2階以上に住んでいる場合は在宅避難

5. 検討が必要な項目
 ● 町会及びマンションの管理組合は、避難行動要支援者の把握や、連絡調整の体制による情報伝達を検討する。
 ● 町会によるマイ・タイムライン作成の支援を検討する。
 ● 水害に対する意識を高める運動を検討する。

想定する風水害
 外水氾濫 (河川氾濫) 神田川氾濫
 内水氾濫 土砂災害

1. 地域の特徴
 ● 神田川(横田川)に隣接する。
 ● 標高は2~3mで、周辺よりやや高い土地となっている。
 ● 人口は世帯数
 人口: 3,393人 世帯数: 2,182世帯
 ● 高層のマンションおよび事業所が多く、町会とのつながりが薄い。
 ● 高齢者人口が多く、地域外の方も多い。
 ● 高齢者のみの世帯が多い。

ライフラインが途絶したら...

4階以上では給水できない
 停電すると、冷蔵庫やクーラーが使用できない
 風呂・トイレが使えなくなると、こみや排出物がたまって悪臭に

携帯電話やインターネットが使えない

3. 事前に備えておくこと
 個人・家庭の取組内容
 ● 風水害に対する知識や備え等に関する理解度を向上させ、マイ・タイムラインを作成する。
 ● 2週間分の食料品、生活用品、薬などの備蓄を常日頃から心掛ける。【在宅避難】
 ● 非常用の食料品、情報入手するものは家の一番高いところに用意する。【在宅避難】
 ● 交通手段などの避難方法や持ち出しものを決めておく。【広域避難】
 ● 広域避難先を決めておく。親戚・知人宅が困難な場合はホテルなどの利用も考える。【緑故避難】

4. 地域のタイムライン(荒川氾濫)

自主避難など 注意の呼びかけ

避難準備・高齢者等避難開始

避難指示(緊急)

災害発生情報

①情報の収集と伝達(以後継続)

- テレビやラジオ、インターネット(台東区HP、東京都HP、ウェザーニューズ、Yahoo!防災ニュース等)、台東区防災アプリ等から情報を収集する。
- 身内からの連絡により情報が入る。

個人の行動

②避難のタイムライン

想定している避難先までにかかる移動時間を考慮し、**早めの避難**を開始する。

遠方へ避難する方は避難開始(高齢者、障害者、乳幼児等)

全員避難!

避難中

- 高齢者と一緒に避難する。
- 近所の人を見かけたら、**避難先等を報告し合う。**

避難完了後

- 逃げ遅れの確認をする。
- 災害時伝言ダイヤル(171)に安全を登録するように声をかける。
- 避難先で地域の方を見つけたら協力し合う。

もし在宅避難を行う場合

- 自宅が3階建て以上もしくはマンションの3階以上にお住いの方
- ライフライン停止を想定した、2週間以上の備蓄の準備が必要
- マンション内の助け合いが必要

浸水想定区域外へ避難

逃げ遅れた場合は、堅強な建物の上階へ避難

5. 検討が必要な項目

- 町会及びマンションの管理組合は、避難行動要支援者の把握や、連絡網等の作成による情報伝達を検討する。
- 町会によるマイ・タイムラインを使った避難訓練等を検討する。
- 水害に対する意識を高める運動を検討する。
- 町会として、避難受入の協定締結を検討する。
- 町内の方全員にタイムラインを作成してもらおう方法を検討する。
- 逃げ遅れの確認が出来るルール等を検討する。(「避難します」等のドアへの表示は、空き巣被害を助長する可能性がある。)
- 町会のメンバーがやるべきことと町内の住民がやるべきことを明確にしてタイムラインを検討する。

4. 地域のタイムライン(神田川氾濫・内水氾濫・高潮)

自主避難など 注意の呼びかけ

避難準備・高齢者等避難開始

避難指示(緊急)

災害発生情報

※自主的広域避難情報が発表されたら、「地域のタイムライン(荒川氾濫)」を参照する。

①情報の収集と伝達(以後継続)

- テレビやラジオ、インターネット(台東区HP、東京都HP、ウェザーニューズ、Yahoo!防災ニュース等)、台東区防災アプリ等から情報を収集する。
- 身内からの連絡により情報が入る。

個人の行動

②避難のタイミング

- 想定している避難先までにかかる移動時間を考慮し、**早めの避難**を開始する。

避難が必要な方は避難開始(高齢者、障害者、乳幼児等)

③避難行動の考え方

- 浸水深0.5m未満の地域 ⇒在宅避難
- 浸水深0.5~3.0m未満の地域 ⇒2階以上もしくは避難所へ避難
- ⇒2階以上に住んでいる方は在宅避難

逃げ遅れた場合は、堅強な建物の上階へ避難

情報収集時期

- ご近所同士での声かけにより、情報の収集漏れを防ぐ。
- 消防団から情報を伝達する。
- 町会から、**避難に時間がかかる方へ情報伝達**する。
- タイムラインを確認するように声をかける。

避難開始前

- 避難する前に**隣人へ声掛け**をする。
- 町会会館の重要書類、備品を高いところに移動、戸締りをする。
- マンションの**同じフロアの居住者の方へ情報伝達**する。
- マンション居住者以外の住民の受け入れを開始する。(要検討)

避難中

- 高齢者と一緒に避難する。
- 近所の人を見かけたら、**避難先等を報告し合う。**

避難完了後

- 避難先で地域の方を見つけたら協力し合う。

5. 検討が必要な項目

- マンション管理組合やゼルのオーナーは、1、2階を賃貸やテナントとして貸し出している場合、建物内の助け合い方法について検討する。
- 町会は、マンションの管理組合との協議により、マンション居住者以外の住民の受け入れについて検討する。
- 町会及びマンションの管理組合は、避難行動要支援者の把握や、連絡網等の作成による情報伝達を検討する。
- 町会やマンションの管理組合は、避難所の運営に協力することを検討する。
- 町会として、在宅避難した方を把握する仕組みを検討する。(例)窓から旗等の予め決めておいた目印を出す 等